

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所ならはし		
○保護者評価実施期間	2025年 1月17日		2025年 1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 27名
○従業者評価実施期間	2025年 1月17日		2025年 1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	豊かな自然と地域の温もりの中で、たくさんの体験、さまざまな人との触れ合いを通しての育ちを支える。	・水辺の楽校での川あそび、悠々の杜散策、たけのご掘り、わらび採り、栗拾い、梅拾い等、豊かな自然環境を活用して、地域の方々と触れ合いながら、様々な体験ができるよう取り組んでいる。 ・広場での畑づくりやネイチャーゲーム等、自然の中であそぶ楽しさや学びを大切にしている。	ひらた里山の会主催のイベントに参加し、地域の方々との交流があるが、事業所の行事に地域住民を招待する等はないため、今後、保護者の意向を伺いつつ検討していく。
2	ご家族や学校等と連携をとり、一人ひとりの育ちに合わせて支援する。	・一人ひとりの得意なこと、好きなことに目を向け、伸ばしていくことで自信、自己肯定感を育む。 ・日常生活でのスキルアップを目指す(自立支援)	日々の支援を通して、アセスメントを丁寧に行い、一人ひとりのニーズを把握し、適切な個別支援計画作成に繋げ、個々の子どもに応じたオーダーメイドの支援を行う。
3	友だちとのあそびの中でコミュニケーションを養う。	・集団でのあそび、運動あそび等を通して、友だちと一緒にあそぶ楽しさを共有しながら、友だちのかかわり方や必要な集団でのルールを学ぶ。 ・「なにをあそぶ?」、子どもたちが主体的に参加したくなるプログラム、魅力的な活動を工夫し、子どものねがいの響き合いを大切にしている。	子どもの発達や課題に合わせ、苦手意識のあるものも自信へと繋がっていく支援ができるよう、今後も様々な知識やスキルを職員が身につけていく。
4	家庭的で安心できる空間をつくる。	うれしい! 楽しい! いやだ! 悲しい! など、安心して自分を表現できる…ほっとできる居場所になるよう努めている。	年齢幅が広く、一人ひとりのお子さんのニーズに応えるためには、更なる工夫が必要と考える。利用していただいている、すべてのお子さんにとって、安心できる、居心地の良い場所になるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会が少ない。	1.夏休み期間、地域のプールに週3回通っていて、学童クラブの子どもたちと一緒にいることが度々あり、場を共有して活動する良い機会となっている。 2.ひらた里山の会協力のもと、タケノコ掘り、サトイモ苗植え、栗拾い等、様々な体験ができるように計画し、イベントを通して地域の方々との交流がある。 3.ボランティアを受け入れ、小学生、中学生、高校生、大学生等、積極的に地域の方々との交流を図っている。 上記1~3の通り、折を見て、交流できるよう工夫はしているが、頻繁ではない。	本人や保護者の意向を踏まえ、交流の機会を増やすことができるよう検討する。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修を企画し実施する。	以前、講師の先生にペアレント・トレーニングの依頼をしたところ、ペアレント・トレーニングは短時間でできるものではなく、大概1回が90分、全10回のセッションがあり、隔週で実施されることが多いと説明を受けた。	長期に及ぶペアレント・トレーニングに保護者の方が参加できるか?と考えると、短時間で保護者の方が参加しやすく、興味関心のあるテーマで講演等を計画し、参加していただく方が良いのではと考え、開催を検討する。
3			